

国語 第6学年 古典芸能の世界 / 狂言「柿山伏」を楽しもう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書出版『国語（令和6年度版）』の11月配当を基にした授業案。教材本文・台詞・挿絵は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

狂言の言葉や動きと出来事の間接関係を確認、古典芸能の面白さを考える。声の大きさやまねの上手さだけで評価しない。単元の終わりに残すのは、言葉・動き・そこから受けた印象を対応させた鑑賞メモ。教材についての感想に加え、どの言葉をどう捉えたかが見える記録にする。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第5学年及び第6学年〕〔知識及び技能〕(3)イ	イ 古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。
〔第5学年及び第6学年〕C読むこと(1)オ	オ 文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えをまとめること。

単元の目標

古典芸能の解説や作品に親しみ、昔の人の感じ方を知ることができる。作品の内容から考えた狂言の面白さを、言葉や動きを根拠にまとめることができる。言葉の働きを確認、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①古典芸能の解説や作品に親しみ、昔の人の感じ方を知っている。〔知識及び技能〕(3)イ	①「読むこと」において、作品の内容から考えた狂言の面白さを、言葉や動きを根拠にまとめている。(C(1)オ)	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

光村図書出版の年間指導計画による全2時間（知・技②）。総時数は出典に従い、各時間の活動と本時の選定は本案の提案として組んでいる。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○解説で狂言の特色を確認する。作品の出来事と人物を整理する。	学習状況を見て支援する。
第2次	2 (本時)	○言葉と動きの働きを比べる。面白さの理由を根拠付きで伝える。	思①（発言・学習記録）

本時の案

本時の目標：作品の内容から考えた狂言の面白さを、言葉や動きを根拠にまとめることができる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「どの言葉や動きが、人物の様子や面白さを伝えていますか」 【めあて】狂言の言葉や動きと出来事の間係を確認、古典芸能の面白さを考える。 〈予想される児童の反応〉 ・言葉の繰り返して出来事が分かりやすくなった。	本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 （ 分）	○「どの言葉や動きが、人物の様子や面白さを伝えていますか」 言葉と動きの働きを比べる。面白さの理由を根拠付きで伝える。 言葉・動き・そこから受けた印象を対応させた鑑賞メモ。自分が選んだ言葉とその理由を相手に説明する。聞き手は、意図した意味が伝わった箇所と確かめたい箇所を返す。 〈予想される児童の反応〉 ・言葉の繰り返して出来事が分かりやすくなった。 ・動きがあると人物の気持ちを想像しやすい。 ・現代と違う言い方でも面白さが伝わる。	教科書の解説と利用可能な公式の上演資料を分けて確かめる。教科書の台詞は教師が授業内で示し、配布する指導案には引用しない。演じることが苦手な児童は言葉と動きの関係を図で説明する。 想定するつまずき：笑った理由が説明できない、作品にない台詞を既存の本文として足す。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 作品の内容から考えた狂言の面白さを、言葉や動きを根拠にまとめている。（発言と学習記録）
まとめ （ 分）	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・現代と違う言い方でも面白さが伝わる。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った具体的な言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。 ◎態①（学習前後の記録と、見直した理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「どの言葉や動きが、人物の様子や面白さを伝えていますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた具体的な言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

つまずきやすい所と手当て

つまずきとして、笑った理由が説明できない、作品にない台詞を既存の本文として足す。この場合は、教科書の解説と利用可能な公式の上演資料を分けて確かめる。教科書の台詞は教師が授業内で示し、配布する指導案には引用しない。演じることが苦手な児童は言葉と動きの関係を図で説明する。おおむね満足できる状況は、作品の内容から考えた狂言の面白さを、言葉や動きを根拠にまとめているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

プリントの案

単元の学習メモ 言葉・動き・そこから受けた印象を対応させた鑑賞メモ。教科書の文章・図は印刷せず、自分で確かめた箇所の見出しや、自分の言葉で内容を記す欄にする。
交流と見直しの記録 交流前の自分の考え、友達が伝えた言葉、その後の自分の考え、変えた又は残した理由を並べる。友達の考えに合わせることを求めず、判断の理由が分かるようにする。

出典：光村図書出版 年間指導計画。教材名・配当時数・時期・重点項目の出典。年間指導計画例 Excel（6年）「6年」133行目（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/1fcac788-a61c-4521-a515-9a40f3413770/368）／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。原文は手元の公式表の写しと照合。
（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価基準の観点と記録の考え方。
（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）
AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)

https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

